

『賀茂祢宜神主系図』データベースの作成と近世上賀茂社家の基本統計調査

(1) 系図とデータベースの概要

山本宗尚・芝 宏至

1. はじめに

同族会では、恒例行事として毎年七月最終日曜日に国指定重要文化財『賀茂祢宜神主系図』（以下、単に系図）の曝涼を兼ねた一般公開を行っている。系図原本の全てを閲覧できるのはこれ以外にはなく、同族会会員をはじめ多くの方が訪れ、系図をもとに自分の祖先を辿ったり著名な氏人を探したりする機会となっている。これまでも系図の翻刻謄写本（賀茂県主同族会、1970）や刊行本（神道大系編纂会、1984）、いくつかのマイクロフィルム複写（東京大学史料編纂所ほか）などがあったものの、極官および簡単な尻付の情報しか掲載されていなかったり、閲覧の手続きが大変であるなど、叙任の日時や記事を含む全容を参照することはこの曝涼を除いて非常に困難であった。近年、賀茂祢宜神主系図がデジタル複写され、CD-ROM、DVD-ROMで頒布された（賀茂県主同族会、2004、2007）ほか、2007年には古系図一巻の複製が作成され、誰もが系図原本の内容を容易に閲覧できる状況となりつつある。

系図に記載される情報は、次章以降に示すように父子の血統関係や個人の没年・没年齢だけではなく、賀茂社、朝廷官位の昇叙、事件・事故など多岐にわたる。特に、新古系図では17世紀中期以降は記録が充実していることから、明治初期に系図への書き継ぎが止められるまでの約200年の記載事項を解析することで、近世の賀茂社社家の基本統計情報を抽出することができる。これまでも、文化四（1807）年までの名乗りの字種を集めた『賀茂社家十六流名字類』を用いて名乗字の字種・字数を調査した例（井之口、1973）などがあるものの、明治初年度までに系図に記載された氏人の総数は4000人を超え、手作業での解析はかなり骨の折れるものであったと推察される。また、平成十八（2006）年、約14000点におよぶ賀茂別雷神社文書が国指定重要文化財に指定され（国立印刷局、2006）、文書の解読作業が進んでいくことが期待されているが、文書中に記載された名前は官職名のみの場合も多く、ここから名前を辿ることは困難を極める。近年、計算機技術の発達により、デジタルデータから検索システムを構築することが容易になった。系図の記載事項をデジタルデータベース化することで、人名の検索作業や記載事項の解析作業の省力化が期待される。

本研究の目的は、1) 系図に記載された内容をデジタルデータベース化し、年代と受領名等から容易に賀茂社氏人を検索できるシステムを構築することで、今後進むであろう賀茂社に関する研究への便宜に資すること、2) このデータベースをもとに、コンピュータを用いた統計解析を行うことで、近世賀茂社家の実態を理解すること、である。本稿では、系図に記載された事項と、先行研究により明らかとなった官位昇叙等のルールの解説と、データベースの概要について述べる。

2. 系図の記載事項

系図の記載事項は一定のルールに基づいている。これ自体は明瞭なものであるが、賀茂社社家の場合は、賀茂社としての官位と地下官人としての官位が並立している（言い換えると、一人が同時に二つの位階、または二つ以上の官職を持っている）ため、この点を踏まえて系図を見なければ混乱をきたす。そこで、まずデータベースの入力項目ともなる系図の記載事項を整理する。系図を読み解く上での前提となる知識と系図の概略については、藤木（2005）に詳説されているので、そちらを参照されたい。

① 諱

往来田受領時の名前を載せるのが例か（系図に元・改実名の例があるため）。往来田未取得時に没した場合、幼名を記す。二字名のうち、通字は所属する門流（十六流）の漢字を用いる。偏諱の付け方にも故実（井之口（1973）に詳しい）がある。

② 幼名（改名）

諱の右上に記入。受領名を持っていない場合、幼名に大夫を繋げ通称とする。

③ 元名，改名歴

諱の左に記入。元～，改～，などのように記入。

④ 極官位

諱の右上に記入。位階の右に社司の二十一官，歌役・陰陽大夫などの社役の一部，北面など地下官人の職名の一部が記される。

⑤ 官職歴

諱の右下に記入。社家・地下官人の区別なく記入されているので，官職に関しては社家と地下官人との区別はない可能性がある。精進頭人の勤仕以前の任官については，守・介・丞をはずして記録するのが例。

⑥ 尻付（社家の官位）

諱の左，欄不足の場合は直上に記入（その場合は注記がある）。元服，養子関係，官位の昇叙任官，遷官勤仕，社家放列，卒（無官位は死，四位までは卒，三位は薨）年月日と卒年齢などの記録。官位の昇叙任官については年・月・日・官位・上卿・職事の順に記す。ただし官職については精進頭人の勤仕後の記録のみか。社司の越官（直上の社司に服喪等故障があるときは飛び越して任官する）など特別の理由がある場合は記録をつける。

⑦ 尻付（賞罰，社司代勤の記録）

諱の直上に記入。事項によっては，該当する神主の尻付に詳しい顛末の記述がある。

⑧ 尻付（地下官人の官位）

諱の直上に記入。官位の昇叙任官は⑥に同じ。

3. 昇叙のルール

位階の昇叙や官職の任官に際しても，一定のルールが存在した。これについては，系図の

最後に凡例として記載されているほか、『賀茂注進雑記』にも関連の記載がある。また、「賀茂奏事始」の復活に際しての文書中（所, 1997）、精進頭人の日記文書（大山, 2003）にも関連事項がみられる。これらを参考に、以下に位階昇叙のルールをまとめる（参考文献中の誤訳については訂正した）。

- ・七家社司の嫡男なら九歳から、氏人は十五歳（享保以前は二十歳か）から叙爵を申請できる。

- ・極官は七家社司が正三位、氏人は従四位下。ただし、氏人のうちで社司になったものは正四位上を申請してもよい。

賀茂社位階の初叙は従五位下。次いで、従五位上→正五位下→従四位下→従四位上→正四位下（七家社司の場合は、続いて従三位→正三位。三位以上は上下の区別はない。）と昇進する。正〇位上は、正上の位と言い通常は叙せられない。

- ・叙爵（従五位下）から従四位上に昇るにはそれぞれ中三年、さらに正四位下への昇叙には中四年おくこと。

氏人の場合、正四位下への昇進には、最短で三十一歳ということになる。

- ・位階昇叙の勅許を得た時は、賀茂伝奏に五〇〇文、奉行に二〇〇文、ついで口宣案の出たときは、職事に三〇〇文、上卿に二〇〇文ずつ、合計一貫二〇〇文献上する。

- ・京官受領名を名乗るには精進頭行事を勤め終えることが必要。

- ・社司の任官に関しては、次第転補の制による。

七家社司の初任は貴布祢宜祝。次いで、貴布祢祢宜→片岡祝→片岡祢宜→権祝→権祢宜→正祝→正祢宜→神主。氏人の社司の初任は氏神祝。次いで、氏神祢宜→沢田祝→沢田祢宜→奈良祝→奈良祢宜→若宮祝→若宮祢宜→大田祝→大田祢宜→新宮祝→新宮祢宜。死去、辞職などのため欠員が出た場合、下位の社司がそのままの序列で昇任する。

- ・童名が記されている者は無足（往来田が支給されていない）のうちに亡くなったことを示す。

これらのほか、著者らが作業中に見出したルールについて以下にまとめる。

- ・地下官人の官位昇叙の規定は地下官人の官位規定に従う。

地下官人の種別は多岐にわたる（山本, 2007）が、概して諸大夫・侍身分に区分される。

賀茂社の地下官人のほとんどは初叙が従六位上（または正六位下）

- ・地下官人の位階と賀茂社の官位は独立している。つまり氏人の中で地下官人を勤めている者は、官位を二つ持っている（賀茂社位階に比べて地下官人の位階は数段下であることが多いが、逆のケースもまれにみられる）。極位は、賀茂社、京官の区別なく上位を記録する。

- ・社家官位の尻付の上卿は賀茂伝奏、職事は奉行となっている。

- ・寛延三年（1750）九月の「官位御定」（詳しくは橋本（2002））は賀茂社社司職、官職に

も及んでおり、この件に関する記事は系図尻付にも注記されている。

寛延三年九廿七古代之通諸社一統社家任官被停止辞却之了其趣詳見神主册久系下
同年十二廿八任官如旧被復了

表1：データベースに登録された新古系図所載の人数(最終的に数人程度の増減が見込まれる)。

4. データベースの概要

新古系図の本巻を除く十六流各巻に記載された者全員とし、第二著者が中心となって表計算ソフト Microsoft Excel への打ち込みを行った。各流で集計した登録人数を表1に示す。現在、このデータを用いた解析を順次進めているところではあるが、データベースとしての効率がよく、拡張性がある統一的形式であるリレーショナル

	流	人数		流	人数
1	氏	417	9	重	204
2	平	71	10	幸	81
3	清	514	11	季	528
4	能	31	12	保	752
5	久	373	13	宗	36
6	俊	69	14	弘	34
7	直	252	15	顯	604
8	成	114	16	經	296

データベース (Microsoft Access や Star Suite Base など) への移行を開始している。『公卿補任』のデータベース化を行った五島 (2001) を参考に、系図の特徴を勘案して表2のようなデータベース初版の形式を策定した。

五島 (2001) にデータベースの利用例が記されているが、一條家諸大夫で書博士であった岡本保考の記録 (表3) を例に簡単な説明を加える。データベースは、○で分割した個別ファイルから成立しており、それぞれのファイルに必ず付けられている個人 ID を通してつ

表2：『系図』リレーショナルデータベースの書式

○基礎台帳		○位階 (賀茂社、地下官人)	
個人ID	流*1000+通し番号	個人ID	流*1000+通し番号
DVD	流*100+ファイル番号	位階	
CD	ファイル番号	叙位年月日	yyyyymmdd
神道大系	ページ	終了年月日	yyyyymmdd
名前		理由	昇・没・辞・他
フリガナ	『賀茂県主年齢次第』で追加	備考	
生年	yyyy	○官職 (社司廿一職・賀茂社官職、受領・百官)	
卒年月日	yyyyymmdd	個人ID	流*1000+通し番号
卒年齢		官職名	
実父ID		補任年月日	yyyyymmdd
養父ID		解任年月日	yyyyymmdd
廿一職極官		補任種別	新補・直補
社職		解任理由	転・越転・没・辞・他
地下官人		備考	
備考		○事件等	
○改名歴		個人ID	流*1000+通し番号
個人ID	流*1000+通し番号	年月日	yyyyymmdd
名前		内容	
フリガナ		備考	
種別	幼・元・改	次版追加予定	
履歴	1, 2, … (履歴がわかる場合)	○社司代勤	
備考		○遷官勤仕	
註			
yyyy=年, mm=月, dd=日。閏月の場合はdd+50			

布など)の結果を示す予定である。本稿で紹介したデータベースは、リレーショナルデータベースへの移行が終わった段階で公開したいと考えている。

参考文献

- 井之口有一, 1973: 京都賀茂社家十六流の名乗の研究 -社家の言語生活の調査研究(2)-. 聖母女学院短期大学児童教育科研究紀要, 19-32.
- 大山喬平, 2003: 上賀茂神社の精進頭人について -本学博物館収蔵「上賀茂神社文書」-. 大谷大学図書館報, 21, 13-16.
- 賀茂県主同族会 (編), 1970: 賀茂氏惣系図上・下, 和綴本.
- 賀茂県主同族会 (編), 2004: 賀茂禰宜神主系図. 賀茂県主同族会, CD-ROM.
- 賀茂県主同族会 (編), 2007: 賀茂県主系図. 賀茂県主同族会, DVD-ROM.
- 五島邦治, 2001: 『公卿補任』データベースについて. 歴史の広場 -大谷大学日本史の会会誌-, 4, 3-17.
- 神道大系編纂会 (編), 1984: 神道大系 神社編八 賀茂, 神道大系編纂会, 649p.
- 所 功, 1997: 「賀茂奏事始」に関する覚書. 京都産業大学日本文化研究所紀要, 2, 93-136.
- 橋本政宣, 2002: 寛延三年の「官位御定」をめぐって. 近世公家社会の研究, 第三章, 吉川弘文館, 750-804.
- 藤木文雄, 2005: 解説 賀茂県主系図について. 賀茂県主同族会, 23p.
- 藤木正直・須磨千穎, 1992: 賀茂神主補任記, 賀茂県主同族会.
- 山本宗尚, 2007: 地下官人賀茂季鷹と賀茂の氏人たち. 賀茂文化研究, 4, 25-33.